

アメリカ、イスラエル、カナダの 社会福祉教育における学際連携

ローラ・ブロンステイン (ビンガムトン大学社会福祉学部)

デブラ・マクフィー (バリー大学ソーシャルワーク校)

テリー・ミズラヒ (ハンター大学ソーシャルワーク校)

ヨシー・コラジム = コロシー (地域社会発展のための学際フォーラム、
エルサレム、イスラエル)

翻訳者: 豊福美佳子 (同志社大学大学院)

研究について

Our study

- 目標：教育現場および実践現場に存在する、学際的な活動、知識およびスキルの現状と、教育者および現場の専門職による専門職間アプローチについて、実証的な理解を提供すること。
- 方法：アメリカ、カナダ、イスラエルの社会福祉系大学学長および学部長に対し、18項目におよぶウェブアンケート調査を実施。

学際連携の定義

Definition of interdisciplinary collaboration

- 「異なる学問分野のメンバーが、共通の課題や目標に向けて貢献しあう、個人の間にあるプロセスである。」
(Berg-Weger and Schneider, 1998 p.98)
- この研究では、調査対象者に、「大学内外のプログラムとその他のプログラムの間に存在する、継続的かつ公式な相互関係」について答えるよう求めた。

学際連携の例

Examples of interdisciplinary collaboration

- 臨床におけるチームワーク
- コミュニティ・ディベロップメント
- 市民参画
- 大学と地域の連携
- 大学内における学部間連携

社会福祉教育における「連携」

“Collaboration” in social work education

- 社会福祉教育における学際連携に関する調査は、ごく少数である。(Berg-Weger & Schneider, 1998)
- 学際連携の成果およびそのプロセスに関する学術論文の数が増え続けているにもかかわらず、専門職教育や大学教育の履修課程において、学際的実践のための明示的な教育は十分に反映されていない。

アメリカにおける連携

Collaboration in the U.S.

- 公的機関や民間の出資者*が、受託者に対して連携の実証を求めるため、ミクロとマクロのレベルにおいて連携実践が増加している。また、多くの社会福祉系教員は、大学と地域の連携を推進する役目を担っている。

*訳者注：例として、事業委託をおこなう行政機関や、事業助成をおこなう民間の基金や財団などがある。

カナダにおける連携

Collaboration in Canada

- 学際連携は、長期にわたり、地方政府と連邦政策において奨励されてきており、組織構造として成立した共通の実践である。近年の活動は、これらの成果に対する評価と、世界的な実践との接点に焦点がおかれている。

イスラエルにおける連携

Collaboration in Israel

- 専門職は、今日最も重要視されている学際
的実践に伴い、臨床サービスやコミュニティ
ワークに従事することが義務付けられている。

調査方法

Methodology

- ウェブアンケート調査 (Survey Monkey) と電話によるフォローアップ
- 調査対象: 計226の社会福祉系大学
全米ソーシャルワーク大学学長協会 (NADD*) の
会員180校、イスラエル11校、カナダ35校

*NADD (National Association of Deans and Directors Schools of Social Work)

サンプル

Sample

- 計106校の代表者から回答を得た
- 全体の回答率は47%
 - アメリカ78校(全体の74%)
 - カナダ17校(全体の16%)
 - イスラエル10校(全体の10%)
 - 無記名1校

サンプル

Sample

- 大学の規模
 - 2万人以上 44%
 - 1万人～2万人 22%

- 大学の立地
 - 大都市 41%
 - 郊外 5%

サンプル

Sample

- 取得可能な社会福祉の学位
 - 社会福祉学修士 94%
 - // 学士 75%
 - // 博士号 48%

- 回答者が所属する課程で最も多いもの
 - アメリカ 修士課程
 - カナダ 学士課程
 - イスラエル 学士課程

調査結果

Findings

- 共同学位を授与する課程
 - 回答者のうち56%の課程が提供
 - 最も一般的な共同学位：法学(29.5%)
- 教育における公式な連携
 - 回答者のうち59%の課程が実施
 - 最も一般的な連携の分野：教育学(24%)

調査結果

Findings

- 実習現場における連携
 - 精神保健 87%
 - 医療 83%
 - 学校 73%
- 実習現場における連携なし 6%

調査結果

Findings

- 連携に最も適した科目
 - 調査方法 75%
 - 政策 73%
 - マクロ実践 73%
 - 選択 73%

調査結果

Findings

- 連携に関する知識や技能を学生に身につけさせるための今後の計画
 - 地域を基盤とした調査/評価 (62%)
 - 授業内容 (57%)
 - 大学をあげた地域団体との共同プロジェクト (44%)
 - セミナー/座談会 (41%)
 - 共同学位課程 (40%)
 - 現場教育の必修化 (39%)

調查結果

Findings

- 教員間連携
 - 教育学 45%
 - 看護学 45%

国ごとの結果

Findings by country

□ 大学による学内連携の促進

- アメリカ 78%
- カナダ 70%
- イスラエル 70%

□ 大学による地域連携の促進

- アメリカ 96%
- カナダ 82%
- イスラエル 100%

国ごとの結果

Findings by country

- 連携の所産に対する回答として、3国に共通して最も多かったもの「大学に対する評価」
- 連携の所産に対する回答として、アメリカとカナダで2番目に多かったもの「業務からの解放」
イスラエルにおいては、1校もこの回答を選ばなかった

今後への期待：質的データを参考に

Room to grow: Findings from qualitative data

- 「学生に学際連携について教えるためには、教員間における連携協力を拡充することが必要である。このことは、教員が、学内の『テリトリー』を堅守するために時間を優先しなければならないといった障害を乗り越えることや、大学が（一部の研究者の功績のみを評価し、研究費を補助するような方法ではなく）連携を具体的に評価する方法を確立することを示唆する。」



今後への期待：質的データを参考に

Room to grow: Findings from qualitative data

- 「教員は、学際連携が文化として根付くために、自らの業務にそれを反映させる必要がある。学際連携は、クラスの中で簡単に起こるものではない。」



今後への期待：質的データを参考に

Room to grow: Findings from qualitative data

- 「大学における予算の形態は、教育における学際連携を促進するものではない。また、そのことは、研究においても一部当てはまるといえる。」



今後への期待：質的データを参考に

Room to grow: Findings from qualitative data

- 「学際連携は容易なことではない。時間も資源も必要である。」



今後への期待：質的データを参考に

Room to grow: Findings from qualitative data

- 「学際連携が探求される背景は、それに敵対するものである。」

論点

Discussion questions

- (もしあるとしたら)学際連携はあなたの学部/学科のどの部分で教えられているか。
- どのようにすれば、実習における学際的な経験を通して、学生の学びを最大限引き出すことができるか。
- どのようにすれば、学部/学科レベル、大学レベル、学位授与機構レベルで、そうした連携を支援することができるか。
- 教員による学際連携を支援するためのよい動機(インセンティブ)は何か。
- 次なるステップは何か。